

平成 29 年度 地域ケアプラザ事業報告書

■ 施設名

横浜市今宿地域ケアプラザ

■ 事業報告

今年度、地域ケアプラザの管理運営をどのように行ったのか、具体的に記載してください。

以下、事業実施評価との共通部分

1 全事業共通

(1) 地域の現状と課題について

- ・今宿地域ケアプラザの所管地域は、旭区内のケアプラザでは65歳以上の高齢者数が多く、このため要介護認定者数、介護予防が必要な高齢者数、行政サービスの積極的介入者数、特定高齢者数、高齢者単身世帯数及び認知症者推定値が、他の地域に比較し多い状況にあり、ケアプラザのみならず、地域の人や活動団体が協力し合い見守りや住民同士の支え合いを意識して行動しました。
- ・高齢者が住み慣れた地域で安心して何時までも生活が継続できるよう、元気な高齢者は健康な状況を維持できるよう、また介護が必要な高齢者は地域で支えて介護の支援をしていくため、地域ケアプラザが中心となって地域包括支援センター機能と地域活動交流機能、生活支援を連携させて、社会資源等を活用しケアマネジメントをしてきました。
- ・「きらっとあさひプラン」で当所管地域では2連合自治会でのささえあい等の計画が策定されており、その計画実現に向けて住民のお互いが支え合いのできる地域を目指して、ケアプラザがその中心的役割を果たしていかなければならないと認識しており、計画推進とともに地域事情に合った包括ケアシステムを構築しています。

(2) 相談（高齢者・こども・障害者分野等の情報提供）

- ・ケアプラザの広報誌やリーフレット等による情報発信、地域で開催される食事会や催し、会合等への参加を通して、高齢者だけに限らず、児童・障害分野の相談機関であることを周知しました。
- ・後見的支援室絆と連携して、横浜市障害者後見的支援制度の個別出張相談会を延べ5回開催しました。
- ・地域のボランティア活動などインフォーマル情報の把握と提供に努めました。
- ・普段から関係機関との連携を図り、相談内容に応じてスムーズに連携や引き継ぎが行えるよう対応しました。また地域資源の情報収集にも努めると共に地域ケアプラザの情報ラウンジを活用して分野ごとの情報提供をしました。
- ・地区社協と連携しながらお子様向けリトミックや救命救急講座を行いました。

(3) 各事業の連携

- ・地域包括支援センターと地域活動交流コーディネーター、生活支援コーディネーターも含め、地域の生活者の視点を取り入れた支援としてサロンの回数を増やすなど、地域の方が利用しやすいように工夫を図りました。
- ・ケアプラザで評判のよい事業（くつろぎカフェ）は、地域の自治会館や、ケアプラザまで来られない方を対象に音楽や体操を楽しんでいただきました。
- ・地域包括支援センターが把握したひとり暮らし高齢者の支援等の課題を、地域活動交流コーディネーター・生活支援コーディネーターも含めて地域に伝え自主事業（地域資源）を紹介するなど、地域でできる支援体制や啓発事業などへとつなげました。
- ・地域包括支援センター各職種と生活支援コーディネーター、地域活動交流コーディネーターが連携して、地域のさまざまな個別の課題の解決へ取り組みました。（地域福祉保健計画など）
- ・地域活動交流コーディネーターが把握した地域ニーズを地域包括支援センターへ伝え、ニーズに沿った取組みを行いました。
- ・上記取組から得た情報を記録しケアプラザ内で共有することにより、どの職員でも対応できるような体制を作りました。

(4) 職員体制・育成、公正・中立性の確保

- ・常勤職員と非常勤職員を適切に配置し、適正な業務運営に努めました。
- ・所長 常勤 1名
- ・地域包括支援センター 常勤 4名（保健師 1名、社会福祉士 1名、主任介護支援専門員 2名）
非常勤 2名（介護支援専門員 1名、事務員 1名）
- ・介護予防支援 常勤 1名、非常勤 1名
- ・地域活動・交流 コーディネーター常勤 1名、サブコーディネーター非常勤 5名
- ・生活支援 コーディネーター常勤 1名
- ・通所介護・介護予防通所介護 常勤 4名、非常勤 20名
- ・居宅介護支援 常勤 3名、非常勤 1名
- ・経理 常勤 1名
- ・介護保険請求等 非常勤 1名、清掃員 非常勤 2名 運転員 非常勤 4名
- ・職員の資質向上等を図るため研修等に積極的に参加するとともに、伝達研修により研修成果を職員間で共有し、業務に反映するように努めました。

(5) 地域福祉保健のネットワーク構築

- ・地域サービス等のリストやマップを必要に応じて住民に開示し、情報公開に努めるとともに、常に新鮮な情報を提供できるよう、定期的に見直しを行いました。
- ・地域の関係機関や関連団体との連携をスムーズにするため、窓口になる人やキーパーソンにケアプラザ及び地域活動交流、生活支援体制整備事業の業務をPRし、顔の見える関係づくりに努めました。
- ・地域の母親クラブの交流会を開催し、子育ての課題を集めました。また東希望が丘地区の「子育て応援隊」の活動を支援して、課題解決のためのネットワークの構築に繋がりました。
- ・地域包括支援センターエリアの、定期的な会合やボランティアグループの活動の場などに出向いて情報交換に努めました。

(6) 区行政との協働

- ・多様化する地域住民のニーズに応えるため、区の福祉保健課や高齢・障害支援課と連携をとりながら住民のニーズに沿った事業を企画・展開しました。
- ・子育て支援事業では、区の保健師の講話を取り入れるなど、適切な指導を受けて事業に活かしました。
- ・地域包括支援センターエリアについては、福祉保健課等と地域動向の情報交換を図りながら、その推進に向けて調整しました。

2 地域活動交流事業

(1) 自主企画事業

- ・高齢者に人気のある歌の会や体操教室を数多く企画してまいりました。
- ・利用者様から季節毎にアンケートを取り、人気の高い事業を開催できる様、準備をしました。
- ・2010年からスタートした旭公会堂での「合同歌声喫茶」は1度に大勢の参加者に来ていただくため、その機会を活用して各ケアプラザで行われている自主事業を案内することにより、その後各ケアプラザでの利用に繋がるようにしました。
- ・合同歌声喫茶のボランティアさんが集めた義援金を実行委員のメンバーと被災地へ届けました。また南相馬市で開催された秋まつりのボランティア活動も行いました。
- ・子ども向けには「科学」「料理」など、普段経験できないことにもチャレンジしていききました。(日曜ラボ)

(2) 福祉保健活動団体等が活動する場の提供

- ・地域活動交流事業から今年度も「今宿サマーフェスタ」に子供から大人まで参加していただき、地域活動のきっかけづくりをしました。
- ・くつろぎカフェから新規男性の利用者様も増え、その方々にケアプラザの事業の案内等をしました。
- ・登録団体交流会により活動の内容をお知らせすることで、他の団体にも参加できるきっかけ作りをしました。
- ・利用団体の成果をデイサービスや今宿サマーフェスタで発表していただいたりし、インフォーマルサービスの紹介を通して住民同士の交流を図りました。
- ・3つの作業所にパンとおやつ及びとうふ販売の場を提供し、作業所と住民の交流を図るとともに、作業所の活動の支援を行いました。
- ・毎年5月末に開催している合同歌声喫茶でも区内の作業所にお声がけし、作業所の商品の販売をお願いしました。
- ・地域作業所による喫茶（Mori-Café）の運営がますます地域の方々との交流の場になるよう努めました。
- ・地域の一般団体の活動が福祉保健活動に発展するよう、施設利用申込み時に啓発するとともに、年2回福祉保健活動記録を提出してもらうなど、住民である利用者に向けてボランティアの意識づけに努めました。
- ・登録団体交流会を開催しそこでの情報交換を通して、活動団体相互の連携の機会を創出しました。
- ・施設の登録団体の情報を定期的に見直し、情報開示の確認をするとともに、掲示板やホームページの活用などを周知して、地域住民によるインフォーマルサービスの紹介に積極的に取り組んでいきました。また、施設内の廊下ギャラリーが団体の活動の発表・展示の場として定着するようPRに励み、住民同士の情報公開・交流の場となるよう努めました。
- ・ホームページには地域の方を3ヶ月に1度紹介するコーナーや、日々館内で行われ

ている行事を毎日「いまじゆく日記」で掲載するように努めました。

(3) ボランティアの育成及びコーディネート

- ・登録団体の皆様から意見を聞いてボランティアの育成・定着に努めました。
- ・貸し部屋利用の一般登録団体に対して、デイサービスでの交流やケアプラザの事業（今宿サマーフェスタ）の協力を求めるなど、随時ボランティア活動の意識づけを行い、地域や利用者のニーズに合ったボランティアの育成に努めました。
- ・年度末に「ボランティア交流会」を開き、ボランティア同士の交流の場を提供するとともに、職員とボランティアが忌憚のない意見交換・情報交換をして、より良い施設運営が出来るよう次年度の事業計画に反映させました。
- ・地域にどのようなニーズがあるのか、また地域にどのようなことを出来る人がいるのかなど、さまざまな情報を収集して、広報誌やホームページにて紹介しました。
- ・ボランティアの派遣・コーディネート・育成について、ボランティア活動の啓発に努めました。
- ・新規事業の企画も、事業終了後地域でボランティア活動に繋がる道筋を作りました。
- ・既に活動しているコーヒーボランティアのみなさんの活動場所も広げました。
- ・コーヒーボランティアが活動できる場を今以上に増やしました。

(4) 福祉保健活動等に関する情報収集及び情報提供

- ・地域全体の高齢化が進み、かつケアプラザまでの交通の便がない地域が多いため、高齢者を対象にした事業では、こちらから地域の自治会館へ出向きそこで事業（くつろぎカフェの地域版）を新規エリアにも広めました。（老人会）
- ・くつろぎカフェの成功例を講演会等で幅広く他のエリアにも広げました。（茅ヶ崎・秦野市）
- ・事業終了後だけではなく、事業開催中も参加者からアンケートをとり、利用者のニーズを反映できるよう事業を見直しました。
- ・年6回奇数月に発行の「けあぷら通信」やホームページ（日記の更新など）を通じて地域の皆様へ情報を提供しました。
- ・館内の入り口及び全貸室に掲示版を設け事業・イベントの案内を行いました。
- ・4月登録団体交流会、3月ボランティア交流会を行いボランティアの情報提供及び消防訓練を行っていきました。

3 生活支援体制整備事業

(1) 事業実施体制

- ・地域包括支援センターの介護予防事業との連携で本事業を実施して参りました（太極拳）。
- ・地域包括支援センター、地域活動交流との3共催で本事業を実施して参りました（ガーデンボランティア）。
- ・情報ラウンジのスペースを利用して、集いの場・活動の場を目的とした『サロン今宿』を立ち上げるにあたり準備に取り掛かりました。物品の購入等を検討しています。
- ・その他、ケアプラザ他職種を始め、地域の皆様や各団体の皆様とのコミュニケーションを密にし、「あったらいいな」を一つでも多く実現できるよう努めて参りました。

(2) 地域アセスメント（ニーズ・資源の把握・分析

- ・地域の会合や活動に積極的に出席し、地域の皆様がご自身のことや周りの方の困りごと等を気軽に話せる顔見知りの関係構築に尚一層努めることで、より良く地域を知ること、地域ニーズの把握へと繋げて参りました。
- ・地域で活動されている団体や関係機関と更なる繋がりを持ち、地域の皆様にとって「あったらいいな」と思う取り組みについて一緒に話し合えるよう努めました。
- ・地域の皆様やインフォーマル団体へのアンケート調査の実施や、NPO や民間企業のサービス情報の収集に努め、そこでのニーズ、資源把握、分析から、新たな資源情報リストの作成に取り組めるよう努めて参りました。
- ・ケアプラザ他職種と連携し、それぞれが持っている情報を共有、集約、整理、分析し、地域全体の課題把握に取り組みました。

(3) 連携・協議の場

- ・協議体の設置及び開催に向け、地域で活躍されている方々や適任と思われる方々に、協議体参加への働きかけに努めて参りました。
併せて、既存の地域諸会議の活用も視野に入れ、地域での困りごとの解決に向けた協議体開催の実施に努めて参りました。
- ・協議体開催ありきの会議ではなく、地域の皆様個々の生活に根差した大小様々な課題を汲み取り、それがたとえどんなに小さな課題であったとしても、「個」の課題から「地域」としての課題を推察する視点を持ち、緊急性や必要性を持つ課題であれば随時開催が図れるよう努めて参りました。
- ・地域包括支援センター・地域活動交流との5職種会議を開催し、所内の連携、情報交換 情報共有を図りました。

(4) より広域の地域課題の解決に向けた取組

- ・地域アセスメント等で得られた支援ニーズや社会資源情報を整理し、地域の課題をしっかりと把握した上で、区役所や区社協等の関係機関と連携を図り、協議体での意見交換を通して地域の目指す姿を捉えた目標設定をし、チームという意識を持って課題解決に取り組むことに努めました。
- ・地域の皆様が主体的に活動に取り組むことができ、且つその活動が拡張するような働きかけをして参りました。
- ・地域で活動されている各種団体や区役所、区社協等と連携を図り、日常生活圏域の生活支援及び介護予防の充実を図って参りました。
- ・ケアプラザ他職種と連携、補完し合いながら、ケアプラザ全体で推進して参りました。

4 地域包括支援センター運営事業

(1) 総合相談支援業務

① 地域におけるネットワークの構築

- ・地域ケア会議や会合、各種カンファレンス等を通して、地域の福祉保健団体や医療機関、地域の関連団体等と地域の情報や課題を共有し、ネットワークの構築に取り組みました。
- ・地域の様々な催しや会合等に参加し、地域の役員やボランティアの方々と情報交換を行い、地域資源リスト等の更新に役立てました。
- ・街づくり検討会等地域の会合に参加して、元気づくりマップ等を配布し地域資源の周知に努めました。
- ・医療機関や薬局、理美容店、コンビニエンスストア等の徘徊SOSネットワークシステムの協賛店への定期的な訪問により、顔の見える関係作りに努めました。

② 実態把握

- ・地域ケア会議（個別レベル・包括レベル）の開催や地域の会合等に参加して、個人の困り事や地域の現状・ニーズ等について支援者間で情報共有・検討を行いました。
- ・75歳以上独り暮らし高齢者事業でのリストやデータでみるあさひ等の各種統計等を活用して実態把握に努めました。
- ・サロン散歩道や食事会（あかり会）、かがやきクラブ、地域の催し等に出向いて顔の見える関係作りや状況の把握に努めました。

③ 総合相談支援

- ・定期的に職員会議を実施し、相談内容や支援方法の情報共有と検討を行いました。電話や来所だけでなく、積極的に訪問を行い状況の把握に努めました。
- ・5月には、地域リハビリデイのぞみにて地域住民向けに介護保険に関する講演会を開催し、地域包括支援センターの役割や機能、介護保険制度等について説明しました。
- ・6月に二俣川ニュータウン地区の福祉まつりに参加し、福祉相談会と健康フェアを実施しました(延べ61人参加)。
- ・司法書士による個別相談会や障害者後見的支援制度の個別相談会の情報提供を行いました。
- ・地域の会合や地域ケア会議等を通して地域の関係機関や団体等と連携できたことで、様々な機関から支援が必要な方の相談がありました。専門性の高い相談については、速やかに関係機関や部署に引継ぎました。
- ・地域の食事会(あかり会・萌ぎ会)やサロン散歩道、事業等でのチラシを使った広報、医療機関や近隣商店へのケアプラザの広報誌やチラシの配布を実施し地域包括支援センターの役割や機能についての周知に努めました。

(2) 権利擁護業務

① 成年後見制度の活用促進・消費者被害の防止

《成年後見制度》

- ・司法書士による個別相談会を実施しました。延べ6回開催し17名の相談者がありました。土曜日に開催したことで子供世代からの相談にも繋がりました。
- ・3月に成年後見制度に関する講演会を開催し40名の参加がありました。
- ・成年後見制度に関する相談や親族申立の支援に於いては、手続きに関してのアドバイスや個別相談会へ繋げました。また必要時には関係機関への相談や引継ぎ、連携による支援を実施しました。
- ・地域の催しや会合等でチラシ等を活用して成年後見制度やあんしんセンターの日常生活自立支援事業、各種相談機関について普及啓発に努めました。
- ・12月に旭区版エンディングノートを使用した終活に関する講演会を開催し60名の参加がありました。

《消費者被害》

- ・3月に区内の地域包括支援センターや区役所、旭警察と協力して消費者被害防止に向けた街頭キャンペーンを実施し、様々な年代に向けて注意喚起を行いました。
- ・サロン散歩道や食事会(あかり会・萌ぎ会)等への参加の際や、訪問した際に最近の手口や被害状況、相談先等について情報提供を行いました。
- ・振り込め詐欺等の情報提供があった際は職場内での情報共有を行い、ホームページでの情報発信、民生委員児童委員や介護サービス事業所等の高齢者と接する機会の多い関係者と連携し被害の予防や早期発見に努めました。

② 高齢者虐待への対応

- ・12月に区役所と連携してケアマネジャー向けに虐待対応についての勉強会を実施しました。また1月には民生委員等支援者や地域住民向けに講演会を開催し、早期発見や予防・防止に向けた取組みに努めました。
- ・介護者が孤立しないように、家族介護者の集いや認知症カフェ、ガーデンボランティアの情報提供を行いました。
- ・虐待が疑われる段階からケアマネジャー等支援者らと情報共有を図り、区役所とも連携を取りながら継続的な支援を行いました。

③ 認知症

- ・7月に認知症キャラバンメイトとオレンジ Café のぞみと共催にて、認知症サポーター養成講座を開催し37名の参加がありました。
- ・9月の世界アルツハイマーデーに合わせてオレンジ Café のぞみと共催にて、『毎日がアルツハイマー』の映画上映会を開催し53名の参加がありました。
- ・オレンジ Café のぞみの活動支援として共催事業の提案、地域や支援者への広報活動、参加者の呼びかけ等を行い、活動を支援してくれるボランティアの登録に結び付けました。
- ・ガーデンボランティアでは、認知症の当事者や家族が地域の方との交流が持てる居場所作りの支援を行いました。
- ・医療機関や薬局、理美容店、コンビニエンスストア等の徘徊 SOS ネットワークの協賛店に定期的に訪問し情報共有を図りました。
- ・「希望ヶ丘東地区高齢者をみんなで支える町づくり検討会」や地域ケア会議を開催して、見守りネットワーク体制の構築に向けて取り組みました。
- ・認知症初期集中への事例提出や会議への参加等を通して、対応の難しいケースに於いても支援チームと連携して支援に取り組みました。
- ・家族介護者の会では、介護者同士の交流や男性介護者によるカフェ開催、協力医による勉強会等を実施しました。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

① 地域住民、関係機関等との連携推進支援

- ・インフォーマルサービス等の情報収集に努め、地域住民やケアマネジャーに対し情報提供を行いました。
- ・地域包括支援センターと民生委員とのネットワークを強化するため、連合会ごとに地域の高齢者等に関する情報交換を行いました。個別のケースに関しては、同行訪問するなど、ケースにあった対応をしました。

② 医療・介護の連携推進支援

- ・地域の医療機関や薬局を訪問し、地域包括支援センターの通信紙やチラシを配布して役割を知ってもらうとともに連携を図ってきました。
- ・地域の医療機関との連携を深めるために地域包括支援センター主催の会を開き、地域包括支援センターの役割や制度の説明、事例検討を行っていきました。
- ・ケアマネジャー事業所連絡会で、地域の開業医を招いて、「医療と介護の連携について」の講演会を実施しました。

③ ケアマネジャー支援

- ・相談にはいつでも対応できる体制を整え、ケアマネジャーが一人で抱え込まないよう適切なアドバイスを行いました。
- ・ケアマネジャー連絡会を年4回実施し、ケアマネジャーの勉強とお互いの情報交換の機会の場を設けました。
- ・区内地域包括支援センターと協働で新任・就労予定ケアマネジャーに対しての研修を実施しました。また、地域包括支援センター単位での個別実習も行って来ました。
- ・サービス担当者会議やケアカンファレンスの開催支援をするとともに、会議に出席してスーパーバイズを行いました。
- ・支援困難事例や緊急時の支援については、区役所や関係機関と連携を図りながら迅速に対応していきました。
- ・旭ケアネットの運営委員として会の運営に関わっていきました。

(4) 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

- ・区役所等行政機関、民生委員、病院・診療所等医療機関、介護サービス事業者、利用者・家族や関係住民、地区社会福祉協議会等と会議や諸行事等あらゆる機会を捉えて、意識的に「顔見知り」となるよう関係構築に努めて、支援の必要な高齢者が明らかになった場合に、関係者が支援チームとして協働できる基盤づくりを進めていきました。
- ・地域ケア会議を積極的に開催し、多職種の参加を呼び掛け、会議を通してネットワークが構築できるようにしていきました。
- ・在宅医療相談室とも積極的に連携を図っていきました。

(5) 介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

- ・要支援状態にある高齢者に対し今後も住み慣れた地域で安心して生活が続けられるよう、ご利用者の意思を尊重し介護予防サービス計画書を作成しました。
- ・委託を行う場合はケアマネジャーと連携し、適切なケアマネジメントができるように支援しました。

(6) 一般介護予防事業

一般介護予防事業

- ・大人の寺子屋を開催しました。今までにケアプラザの事業や、地域の活動に参加したことがない方が参加し、ケアプラザの他の事業や自主活動グループの活動や、ボランティア活動に繋がりました。
- ・より身近な地域の中で介護予防に取り組んでもらえるように、地域での介護予防講座を継続して開催し、自主的に活動できるように支援を行ないました(ABC会・スクエアステップ・春陽会館スクエアステップ)。
- ・地域の中の「みな元気 旭！ステーション」の活動支援を行ないました。
- ・協力医と連携し、「大人の寺子屋」の中で、健康講座を2回実施しました。
- ・くるみ学園の栄養士と連携し、「大人の寺子屋」の中で栄養講座、シルバーエイジの栄養講座を行ないました。
- ・サロン散歩道で介護予防ミニ講座を実施しました(はまちゃん体操：年12回)。
- ・介護予防支援を必要とする方にはその方の興味や関心を考慮し、その方にあった地域の活動や自主活動グループを紹介し、参加へと繋がるように支援しました。

5 その他

--

以下、地域ケアプラザ事業実施評価との相違部分

7 施設の適正な管理について

(1) 施設の維持管理について

- ・ 開設後16年が経過し老朽化が進んでいますが、建築基準法、消防法等の関係法令等を遵守し、今宿地区センターとも相互に連携して建物、設備の良好な維持管理に努めるとともに、館内外の見回り等を実施しました。
- ・ 清掃業務、害虫駆除、機械警備業務、自動ドア保守点検業務、自家用電気工作物保守点検業務、冷暖房機器保守点検業務、冷温水発生機・冷却塔保守業務、設備総合巡視点検業務、消防設備保守点検業務及び植栽管理業務については、専門業者との業務委託契約により良好な管理に努めました。

(2) 効率的な運営への取組について

- ・ 当ケアプラザは横浜市今宿地区センターとの複合施設であるため、施設管理運営の役割分担に基づき良好な管理運営に努めました。
- ・ 複合館であるため利用者は多く、地域の皆さまに快適に利用していただくために、相互に連絡を密にして利用者の満足度に留意しながら、利用者アンケート等利用者意見反映にも迅速な対応に努めました。

(3) 苦情受付体制について

- ・ 苦情受付窓口を設置し、苦情解決責任者、苦情受付担当者及び2名以上の第三者委員を定め、常時苦情を受付けて解決する体制を整えるとともに、利用者・家族等から苦情の申し出があった時は、誠意をもって対応するよう苦情対応マニュアルにて職員に周知し徹底を図りました。

(4) 緊急時（防犯・防災・その他）の体制及び対応について

- ・ 防犯対策については、基本方針を策定して職員の役割分担のもと周知を図り、被害ゼロでした。
- ・ 地震等災害対策については、マニュアルを策定し、自衛消防組織、地震発生時の対応、火災発生時の対応、防災備蓄一覧表及び緊急連絡網を定め、災害発生時に迅速に対応できるよう努めました。
- ・ 横浜市今宿地域ケアプラザ特別避難場所開設マニュアルにより、開設、受入及び移送等運営が迅速に対応できるよう努めました。

(5) 事故防止への取組について

- ・ 介護保険サービス提供中の事故防止の徹底を図るため、事故防止対応マニュアルを作成し、デイサービス業務中の利用者サービス提供時に万全を期しました。
- ・ 交通事故等事故防止のため定期的に職員研修を行い事故防止の徹底を図りました。

(6) 個人情報保護の体制及び取組について

- ・個人情報の保護については、「個人情報保護に対する基本方針」によりその適切な取り扱い等に努めるとともに、この基本方針に則り個人情報マニュアルを定めて、職員個人の日常業務の中で周知徹底を図り「地域ケアプラザ個人情報漏えい防止チェックシート」により定期的にチェックしました。
- ・FAX誤送信による個人情報漏えい事故防止のため、ダブルチェックを徹底するとともに、職員研修を実施し職員の意識徹底と注意喚起を図りました。

(7) 情報公開への取組について

- ・事業内容等の情報提供につきましては「けあぷら通信」を年6回発行（奇数月）し、管内の自治会に回覧していただき広報に努めました。
- ・ケアプラザホームページでは講座、教室、介護の情報、施設の案内、ケアプラ通信、アクセス、事業報告、事業計画等についてきめ細かくお知らせし、また施設内の掲示板でも掲示を行い広報に努めました。

(8) 人権啓発への取組について

- ・人権尊重への取り組みについては、「横浜市人権施策基本指針」および「横浜市人権啓発推進計画 ～人権啓発・研修の推進にあたって～」を活用して研修を行い、人権の認識を踏まえた業務遂行に努めました。

(9) 環境等への配慮及び取組について

- ・ヨコハマ3R夢プランに沿って、ごみの発生抑制・再使用・再生利用を積極的に進めました。
- ・日常業務においては、光熱水費の節減のため冷暖房の適正温度設定や封筒・用紙類を再利用するとともに清掃や整理整頓を徹底して行い、施設の良い環境づくりに向けて取り組みました。
- ・横浜市のルート回収に参加しました。

【介護保険事業】

●指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業

《職員体制》

- ・管理者 常勤1名
- ・介護支援専門員 専任非常勤1名、兼任非常勤1名

《目標に対する成果等》

- ・要支援状態にある高齢者に対し今後も住み慣れた地域で安心して生活が続けられるよう、ご利用者の意思を尊重しながら介護予防サービス計画書を作成しました。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

- ありませんでした。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- ・高齢者も要介護認定者も多い地域ですが、ひとり一人のニーズに丁寧に答えるよう心がけました。
- ・併設している居宅介護支援事業所や地域の居宅介護支援事業所、サービス事業所、民生委員やボランティアなど地域の関係機関とも連携をとりながら適切な介護保険サービスを提供しました。

《利用者実績》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
276	282	302	293	301	301
10月	11月	12月	1月	2月	3月
307	296	295	302	299	309

●居宅介護支援事業

《職員体制》

- ・ 管理者兼介護支援専門員 常勤 1 名
- ・ 介護支援専門員 常勤専従 2 名
- ・ 介護支援専門員 非常勤兼務 1 名

《目標に対する成果等》

- ・ 職員がそれぞれ研修等に参加し、専門的価値、知識、技術を高めることができました。また、居宅サービス計画の作成にあたって、ご利用者様が住み慣れた地域で出来るだけ自立した生活が送れるように、問題や課題に向き合い支援することができました。
- ・ 併設された地域包括支援センターと連携した支援体制を構築することができました。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

- ・ ありませんでした。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- ・ 併設された地域包括支援センターとの連携を図りながら支援困難なケース等に積極的に関わり、地域の方々が安心して生活していく為の課題解決に取り組みました。
- ・ ケアプラザ内の居宅介護支援事業所の特性を活かし、介護保険のサービスだけでなく、ご利用者様が活動的に生活できるように、趣味や運動の情報提供や活動支援を行いました。

《利用者実績》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
121	118	117	120	121	120
10月	11月	12月	1月	2月	3月
117	117	119	121	120	122

● 通所介護

《提供するサービス内容》

- 送迎、入浴、健康状態の確認
- 給食、レクリエーション
- 口腔機能向上プログラム

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

● 1割負担分

（要介護1）	614円	入浴介助	54円
（要介護2）	725円	口腔ケア	161円
（要介護3）	837円	サービス提供体制強化加算	7円
（要介護4）	948円	介護職員処遇改善加算（I）	
（要介護5）	1060円		

● 食費負担

750円

● その他

・リハビリパンツ 100円 ・尿とりパット 20円

《事業実施日数》 週 6 日

《提供時間》 10：25 ～ 15：30

《職員体制》

- ・生活相談員 3名（常勤3名）
- ・看護職員 4名（常勤1名、非常勤3名）
- ・介護員 17名（非常勤）
- ・運転員 3名（非常勤）
- ・事務員 1名（非常勤）

《目標に対する成果等》

- ・安全、安心を第一に、レクリエーションや趣味・創作等のサービスをご利用者様
に選択して頂き個別性のある活動を提供することができました。
- ・ご利用者様の身体機能の維持・向上を目指したストレッチ体操、及び平行棒やセラバンド等を使った機能訓練を行いました。また口腔機能向上のため、口腔ケアを実施しました。

《その他》

- ・年間行事として運動会（6月）、秋祭り（9月）、クリスマス会（12月）を実施し季節感を味わって頂きました。折り紙、壁面飾り、俳句、習字、干支の色紙制作など選べる趣味活動や創作活動を提供しました。また、月1回「デイカフェ」を開催し地域の方と交流する機会を設けました。
- ・四季折々の食材を使い、行事や季節に合わせた食事の提供をすることができました。
- ・誕生会を実施し、写真と手作りの誕生日カードのプレゼントを行いました。

《利用者実績（延べ人数）》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
811	871	869	838	838	862
10月	11月	12月	1月	2月	3月
800	761	702	634	638	767

● 介護予防通所介護・第1号通所事業

《提供するサービス内容》

- 送迎、入浴、健康状態の確認
- 給食、レクリエーション
- 運動器機能向上訓練、口腔機能向上プログラム

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

● 1割負担分

(要支援1)	1766円	運動器機能向上加算	242円
		口腔機能向上加算	161円
(要支援2)	3621円	選択的サービス複数実施加算	515円
		サービス提供体制加算 要支1	26円
介護職員処遇改善加算(I)		サービス提供体制加算 要支2	52円

- 食費負担 食費 750円
- その他 リハビリパンツ100円 尿とりパット20円

《事業実施日数》 週 6 日

《提供時間》 10:25 ~ 15:30

《職員体制》

- ・生活相談員 3名（常勤3名）
- ・看護職員 4名（常勤1名、非常勤3名）
- ・介護員 17名（非常勤）
- ・運転員 3名（非常勤） ・事務員 1名（非常勤）

《目標に対する成果等》

- ・安全、安心を第一に考えレクリエーション活動や個別性のある趣味活動、創作活動等のサービスをご利用者に選択して頂き提供することができました。
- ・ご利用者の身体機能の維持・向上を目指したストレッチ体操、及び平行棒やセラバンド等を使った機能訓練、歩行訓練等を行いました。
- ・定期的に口腔ケアを実施しました。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- ・季節行事として運動会（6月）、秋祭り（9月）、クリスマス会（12月）を実施しました。壁面制作、折り紙、俳句、習字など選べる趣味活動や創作活動を提供しました。また、月1回「デイカフェ」を開催し地域の方と交流する機会を設けました。
- ・四季折々の食材を使い、行事や季節に合わせた食事の提供をすることができました。
- ・誕生会を実施し、写真と手作りの誕生日カードのプレゼントを行いました。

《利用者実績（契約者数）》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
29	28	29	32	33	30
10月	11月	12月	1月	2月	3月
31	32	30	31	33	35